

釣れ釣れなるままに

1992年思い出の釣行記 PART. 5

嫁が泣いた



鹿島釣狂

釣遊会第5回大会

☆開催日	平成4年9月20日
☆開催場所	苫前港～初山別港
☆入釣場所	苫前港
☆潮	満潮 06:30 32cm
☆天候	雨 風強い 雷 波2～3m～4m
☆釣果	アカハラ 420mm 多数
	カンカイ 280mm 1
	重量 2210g

☆成績	点数	921 点
	順位	3 位
	累計点	54 点 (⑦⑭⑥24③)

美唄市長選投票日前日。滝・加藤両陣営の選挙カーのボリュームがいっぱいに上げられ、マイク嬢も絶叫調で駆け抜けていく。地区労執行委員として滝選対の事務所に詰めてから今日が最終日となった。民主市政を守るのか、利権市政を許すのかと火花を散らしているが、岩見沢市民となり美唄市に選挙権のない私としては熱が入らない。相手候補の張り番を終え、最後の街頭演説では加藤2000人、滝1000人の聴衆で、渡辺衆議院議員の応援を得た自民党の強さを感じる。「街頭演説会後は帰っていいよ」との金子書記長のお墨付きをもらい早々に引き上げた。

用具の準備は万全だがエサがない。慌てて夕飯を食べ、7:30にカナダ屋へと直行した。エサはゴロ90（美唄農協で30を調達）、イソメ2箱、イワムシ1箱、マキエ2袋である。

会員23名が参加。バスの中は少しゆとりがある。釣り場情報を得るために吉井、賀集氏の近くに座った。先週は、本日の大会下見のために磯尾氏と留萌海岸上平に入ってカレイ釣りをしながらアカハラ釣りの練習をした。そして、前回大会の情報をもとに羽幌川旧河口に狙いをつけていたのだが、賀集、森田氏がそこに入るという。彼らには技術もさることながらゴロの量でも敵わないので惨めな思いをするだろう。さらに、風、波とも強いことを考えて苫前港に入る。（仲間8名）



まず、Gに入り遠近投げ分けるがアタリがでない。30分ほどで阿部氏が来て、アカハラは港の照明が届かない胸壁の陰2~3mの範囲にいることを教わり、2本を垂らし釣りにする。まもなく30cm~35cmのアカハラが入れ食いとなる。嫁対策にと港の中にイソメを付けて遠投した竿はピクリともしない。

2:00ころ東外防波堤根元でアカハラ釣りをしていた仲間が嫁さんを求めて港内に来たのを機会に様子を見にいくとアカハラが港内より大きい。杉尾氏がいい型を上げたと言

い、清田氏も35cm～40cmのアカハラをフラシに入れていた。早速清田氏の横に並んで釣りをする。何本目かに40cmを超えるものが上がった。ヘッドランプの電池切れで光が弱くなり糸の絡みをほどくのに手間取っていたが、まもなく朝の光が差してきた。

5：00頃、内海に向けて投げている竿に、快い鈴の音が響いて、カンカイが釣れた。口の中でルミコオレンジが美しく光る。これで2魚種がそろった。これより大きな嫁さんをと考えるがもう虫エサが底をついた。苫前組では他魚種がクロゾイやクロガシラで型が小さい。

6：00～7：30には途切れていたアタリが、8：00ころより出始める。アカハラは40cm程のものを追加して9：30に片付ける。清田氏は納竿間際にカンカイを釣り上げる。阿部氏はクロガシラ30cm弱を釣り上げる。

審査結果はやはり賀集氏が重量優勝となる。身長賞は森田氏でそのアカハラは50cmを超えていたが嫁がなかった。